

## 平成 20 年度第 4 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- 日 時：平成 20 年 12 月 9 日（火）18：00～
- 場 所：市役所西棟 8 階 811 会議室
- 出席委員：6 名（欠席 3 名）
- 事務局：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会

### 1 開会

### 2 配付資料確認

事務局より事前配付資料と当日配付資料の説明

### 3 進行方法説明

事務局より説明

### 4 平成 21 年度事業計画ヒアリング

#### （1）第 1 グループ（月見路、そ～らの家、くるみの木、あおば）

【委員長】 各施設でアピールポイントがあればお願いします。

【月見路】 月見路では利用者の皆さんが楽しんでもらえるプログラムを提供していくことに重点を置いています。最近の利用者からのニーズにも可能な限り応えていくようにしています。

【そ～らの家】 そ～らの家は平成 21 年度で 9 年目に入ります。利用者の方も高齢化が進み、同時に認知症の方が増えてきました。その傾向は他のテンミリオンハウスと比較しても顕著になっています。最近では、お子様連れの方がいらっしゃるようになりました。そして、今年度より子どもや視覚障害者の方が参加できるように隔月で朗読の会を始めました。その中で武蔵野に関わる昔話の紙芝居を行っています。高齢者だけでなく、子ども達や視覚障害者にも武蔵野のことを伝えていきたいという思いが始めることになったきっかけです。

【くるみの木】 10 月からオープンして約 2 ヶ月が経ちました。イメージしていたものを徐々に実行に移していくことで、ようやく流れが見えてきた気がします。平成 21 年度の事業計画については、開設前の事業計画を見て気がついたこと、あるいは変更すべきことを考慮したうえで作成しました。利用者に

については、早くも多くの方に来ていただいております、延べ人数にして10月は142人、11月は216人という実績でした。ご意見も多数頂いておりますので、できるところから順次対応していきたいと考えています。

【あおば】 あおばでは一時保育の受入施設として、24時間365日開設をして対応しています。このところ、市の子育てSOS支援センターからの緊急一時保育受入要請が増えています。市は子育てショートステイの「のぞみの家」に事業委託をしているようですが、現状では依頼から受入までに3日以上かかっているとの話を聞いています。あおばでは当日の受入が可能であり、緊急受入の依頼が増えています。

また、あおばではあひる事業について、基本料300円をいただいておりますが、昨年度からは毎週火・金曜日は無料開設日としています。無料開設日は通常開設日と比べて多数のご利用者がいらっしゃいますが、中には静かな雰囲気をお好む方もいたり、子育てに悩みを抱えているお母様が利用者の少ない日を選んで来所し、気軽にスタッフに相談するといったケースもあります。平成21年度についても、無料開設日と通常開設日は現状どおりで実施していきたいと考えています。

最後に、子育て支援講座は年17回の開催を予定しています。今までは休館日や祝日で開催し、定員も少数でした。しかし、受講のニーズが高まってきたので、平成21年度は17回のうちの半分は休館日に、もう半分は開館日に開催し、少しでも多くの方に受講してもらえ体制にしていきます。

【委員長】 それでは質問をお願いします。

【質問】 4点お伺いします。

- ① そ～らの家とくるみの木では喫茶事業を実施していますが、地域住民に対してどのような雰囲気作りを心がけているのでしょうか。
- ② 月見路では昼食の提供について、利用登録している人はもちろん、登録していない人も利用できるようになっていると思いますが、どのような雰囲気作りをしているのでしょうか。
- ③ ボランティアの受け入れについて、そ～らの家とくるみの木ではそれぞれどのような内容・体制になっているのでしょうか。
- ④ あおばでは研修費が計上されています。緊急一時保育の受入は高度な専門性が要求されると思いますが、実際にどのような研修を行っているのでしょうか。

【そ～らの家】 数年前の委員会で、喫茶事業をもう少し外部に宣伝してはど

うかという意見がありましたので、看板を作成して庭に設置しました。すると、通りがかりの人が立ち寄ってくれるようになりました。これはそ~らの家が武蔵野市と杉並区の境目にあるからだと思いますが、市民以外の方も立ち寄ってくれます。また、高齢者に限らず親子連れのグループで来られる方もいます。先日は外国人もおやつを食べにいらっしゃいました。おかげさまで看板の効果や利用された方の口コミでかなりの人数が入っています。

ボランティアについては中学生の職場体験の受け入れを行っています。今年は武蔵野市の他に、府中市の中学校にも受け入れを依頼されました。基本的には半日から3日間くらいなのですが、この中学校からは月～金曜日の5日間で6人という大人数を受け入れました。その他には、大学生が単位取得のための実習として来たり、会社を休職している方が社会復帰のきっかけを作るために来たりしています。あとは各種プログラムの講師も全てボランティアによるものです。

【月見路】 市民向けの案内チラシには、昼食を利用する場合は前日午後3時までに予約するよう記載されています。しかし、現実には当日のお申し込みもよくありまして、可能な限り受け付けています。月見路ではスタッフも利用者と同じ内容の昼食ですので、スタッフの食事を利用者に回すことで対応しています。

【くるみの木】 場所が中町でも人通りが少ないところなのですが、看板を設置するようになってからは散歩がてらに立ち寄る人が多くなりました。また、隣接する保育園の園児も午前中の散歩の時に立ち寄ってくれるようになりました。徐々にではありますが、様々な人に利用してもらっています。

学生ボランティアについては、内覧会でミニコンサートを開き、音楽系大学の学生さんに来ていただいて演奏を披露していただきました。今後行う予定です。また、その他にも大学で福祉を学ぶ学生の実習受け入れも考えています。

【あおば】 毎年1回、都の認可外保育所研修をスタッフ全員が受講することが必須になっています。また、その研修でよい先生に出会えば、あおばから依頼して講師としてお招きし、再度研修を行っています。他にもスタッフから要望を聞いて、必要であれば研修に参加させています。平成21年度は、あおばに類似した施設へスタッフ全員で視察に行く計画を立てています。

【質問】 くるみの木のレスパイト事業の実績はいかがですか。

【くるみの木】 今までに問い合わせが数件ありましてし、開設前に予約もありました。しかし、利用料金の設定が高すぎたようです。こちらが考えていた

のは1～2時間程度の預かりでしたが、ニーズとしては1日単位での要望が多かったのです。現在の利用料金で1日利用すると非常に高額になることもあり、開設してから今現在まではまだ利用実績がありません。スタッフの体制も含めて再度検討したいと思います。

【質問】 3～5年程度の中・長期的な計画がありましたらお聞かせください。

【月見路】 特にありません。そのような計画を考える場合、施設の広さなど様々な制約があるので大掛かりな計画などを立てるのは難しいと考えています。

【そ～らの家】 現状の流れを変える必要がないと思っているので、特に3～5年計画は立てておりません。あえて申し上げるなら、1年に1度は利用者の家族を含めてお出かけをする企画を実現させたいという夢があります。

【くるみの木】 まだ始まって間もないのですが、利用者同士がつながり合っ、そこから何か生まれてよりよいものができればよいと思っています。

【あおば】 今以上に地域に対して広がりを持ちたいと思っています。あおばは子どもの施設ですが、高齢者の方とも交わって何かをやってみたい思いはあります。

【月見路】 追加というわけではないのですが、市から年1回、バスを借りることができるのですが、せめて春季と秋季の2回くらいは借りられるように環境を整えて欲しいと思っています。やはり利用者は元気な方が多いので、たまには皆さんとどこかへお出かけに行きたいという要望が増えております。

また、月見路だけではなく、近くにある吉祥寺ナーシングホームのような施設と連携して交流を図れるイベントの企画も考えたいと思っています。その際には地域社協や民生委員の方にもご協力を仰ぎたいです。

【そ～らの家】 連携ということについては、そ～らの家ではゆとりえと勉強会を行っています。単発的なものにせず、継続的に開催できるような形にしていきたいと思っています。

【質問】 4点伺います。

- ① そ～らの家の音楽療法はどのようなことをされているのでしょうか。
- ② そ～らの家の利用者数が減ってきているようです。その原因はどこにあると思われますか。
- ③ スタッフ全体の年齢が高めと思いますが、若いスタッフを集めるために何か呼びかけなどは行っているのでしょうか。
- ④ 月見路の事業資金計画書の支出の部にある「その他の法定福利費」が他施設と比べて高めに計上されています。内容を含めて理由を教えてください。

さい。

【そ〜らの家】 音楽療法は市から補助を受けている「特定非営利活動法人ミュージックパレット」という団体に講師をお願いしています。たまたま、そ〜らの家の利用者の関係者にその団体に所属していた方がおりました、トーンチャイムなどを使用し、音楽を使って病気を治療するものです。

残念ながら講師の方が亡くなられたので、その後音楽療法に使用する道具をスタッフも使用してみましたが、扱いが難しく難儀していました。

ところが、今年の研修による視察先で音楽療法を見ることができ、スタッフでも実践できそうな内容でしたので、ご教授いただきました。おかげで現在はスタッフによる音楽療法として再開しています。

利用者数が減少していることについて、理由は3点あります。ひとつはお亡くなりになった方が多いこと、もうひとつは認知症が進んで家族が対処しきれなくなり、施設へ入所させた方がいること、最後に病気で入院している方が増えたことです。開設当初と比べると、利用登録者の半数が入れ替わっています。

若い力について感じることは、先程申し上げた喫茶の利用者がグループで年1回開催するミニまつりのお手伝いをしてくれるなどして、参加の輪が広がったことです。また、付近にある幼稚園にもイベントごとに声を掛けています。

【質問】 若いスタッフを募集することへの対策はどうでしょうか。

【そ〜らの家】 そ〜らの家は、開設当初からスタッフメンバーが代わっていません。10年間は現体制でやっていこうと考えています。メンバーの最高齢は80歳ですが、非常にお元気で手際よく業務をこなしています。

【月見路】 法定福利費についてですが、スタッフの社会保険料を表していません。

【質問】 くるみの木にお聞きします。開設前の事業計画に赤十字保育園との交流のことが記載されてありましたが、内容や進行具合などはいかがでしょうか。

【くるみの木】 開設前に園長先生と意見交換をしました。その際、保育園でくるみの木にどのように関わっていけるかを検討する旨のお話がありましたが、その後のアプローチはありません。現在は、園児が散歩の途中に立ち寄ってくれる程度となっています。

【質問】 テンミリオンハウスと地域との関わりについて、主に地域社協とはどのように関わっているかを教えてください。

【月見路】 スタッフが四小地区福祉の会の運営協議会に定期的に参加してい

ます。同時に、月見路が毎月行っているスタッフ会議にも四小地区福祉の会の方が参加されており、お互いに情報交換をしています。また、市の行事等にも四小地区福祉の会と協力して参加しています。

【そ〜らの家】 施設長は南町福祉の会のメンバーであり、会合にも出席しています。その他、ゆとりえの行事に参加したり、そ〜らの家のイベントにも協力してもらっています。

【くるみの木】 中央福祉の会や中央コミュニティ協議会の方には開設前からビラ配り、地域懇談会、開所式などで大変お世話になりました。定期的に開催されている中央福祉の会の会合にスタッフが参加しています。また、中町の老人クラブからも場所を貸してほしいという要望がありましたので、平成21年度から検討していきます。

【あおば】 該当となる地域社協は四小地区福祉の会ですが、現時点では特に交流はありません。これから考えていきます。

【質問】 月見路に質問です。スタッフの中に80歳の方がいらっしゃいますが、主にどんな業務をされているのでしょうか。

【月見路】 保健師として週2回従事しています。主に健康相談を担当していますが、利用者からは医者には言えないことも相談できるということで大変好評です。

【委員長】 以上で質問を終了します。ありがとうございました。

## **(2) 第2グループ(川路さんち、関三倶楽部、きんもくせい、花時計)**

【委員長】 各施設でアピールポイントがあればお願いします。

【川路さんち】 代表が変わって2年が経ちました。その後、利用登録者数が増えて、これ以上増えると対処が難しいような状況になってきています。精一杯がんばっていますし利用者もとても喜んでくれているので、平成21年度も現状維持でいきたいと思っています。

【関三倶楽部】 他のテンミリオンハウスと異なり、緊急ショートステイを行っております。24時間スタッフが常駐しておりますので、他施設で利用できない時間帯でも可能な限り柔軟に対応していきたいと考えています。

【きんもくせい】 開所してから5年が経過しました。趣味の講座を中心としてこれまでやってきましたが、そろそろ人数的に限界に達してきたと思います。これからの課題として、きんもくせいから外へ向かってアピールしていくことが挙げられます。コミセン、地域社協、小・中学校を始めとした教育機関など

との連携を図っていきたいと思います。

【花時計】 地域のボランティアを講師としたプログラムを中心に活動しています。平成21年度については、今年度から新しく始めた「利用者とスタッフの合同企画事業」を引き続き実行していきたいと思います。ちなみに今年度は昔遊びイベントを開催しました。イベント終了後には、関わった人たちから「非常に有意義であった」「達成感があった」との感想をいただきました。

また、平成21年度末に利用者による文集を発行する予定です。9月頃までに利用者自筆による文章を作成していただき、年度末までにスタッフが編集していきます。

最後に、花時計では月1～2回、プログラムがない時間帯にリビングルームをおしゃべりサロンとしています。これは静かにお茶をするもよし、利用者同士でお話しするもよしのフリールームの形態です。このおしゃべりサロンに今年10月くらいから、地域社協の方や民生委員の方が世話役となって、地域の一人暮らしで花時計を利用したことがない人を連れ添って、楽しい時間を過ごしてもらう機会を作っています。地域社協・民生委員の方から「地域の人たちに『何かの時には花時計に行けばいい』という安心感を持たせることができる」というご意見をお聞きしたので、今後も続けていきたいと考えています。

【委員長】 質問があればお願いします。

【質問】 花時計に質問します。民生委員はどのような経緯があって花時計と連携を持つようになったのでしょうか。また、今後はどのような形で民生委員と連携を取っていくのかを教えてください。

【花時計】 境南町は丁目ごとに民生委員の分会のようなものがあります。とある会合で、2丁目には花時計があるのだから有効に利用させてもらえばよいのでは、という意見がありました。それを受けて2丁目の会から花時計のおしゃべりサロンを使わせてほしいとの申し出がありましたので受け入れた次第です。お連れになるのは独居の高齢者が中心です。今後どのようにしていくかはまた話し合いをして決めていきます。こういうことをきっかけにして、地域の方と密に連携が取れることは望ましいと思うので、今後も続けていきたいと考えています。

【質問】 同じく地域社協とはどのような関わりを持っていますか。

【花時計】 境南町は「境南地域社協」という名称ですが、スタッフが地域社協の会合に出席する、あるいは行事等に参加することで関わりを持っています。

【質問】 川路さんち、花時計は女性の利用が非常に多いようですが、充実し

たプログラムの他に、ちょっと立ち寄って静かにお茶を飲んで過ごしたい、といったようなニーズはありませんか。

【川路さんち】 毎日びっしりとプログラムを入れているわけではありません。開設当初は何もプログラムはありませんでした。それが、年月を重ねるうちに利用者の方から「こんなプログラムを入れて欲しい」というご意見が出るようになったので現在の形になったのです。利用したいという方は全て受け入れています、これ以上増えたらどう対処すべきかを考えているところです。

【花時計】 講座に参加しない利用者の掘り起こしに頭を痛めているのが現状です。そういう方たちのために場所をどう確保するかを考えてはいるのですが、なかなか解決策が見つかりません。

【質問】 きんもくせいに質問です。講座の中でパソコン教室のコマ数が多いようですが、利用する方の年齢層はどのようになっていますか。

【きんもくせい】 利用者の平均年齢が75歳前後ですので、そのくらいの方のご利用が多いです。男女比についてはやはり女性が多くを占めています。パソコン教室は人気があるので必然的にコマ数を多くしています。

【質問】 先に行ったテンミリオンハウスのアンケートの結果を見て気になったのですが、地震や火事のようなリスクに対して、各施設ではどのような準備をしていますか。

【質問】 今の質問に加えて、新型インフルエンザの対策についても教えてください。

【川路さんち】 地震が起きた場合、建物そのものが大丈夫なのかどうか不安です。来年、市が耐震診断を行うようです。その結果で、建物に何か対策を講じてくれればよいと思っています。その他、現時点では特に準備はしていません。

【関三倶楽部】 すぐ隣が関前南小学校ですので避難するには困らないと思うのですが、詳細は関前福祉の会とも相談して対策を考えます。

新型インフルエンザの対策については、現時点ではスタッフに予防接種を義務付けたのみです。緊急ショートステイを主な事業としていることから、利用者の家族とのコミュニケーションを図り、主治医からも病気の有無などを聞いて把握しておりますが、今後は更なる対策を考えていきます。

【きんもくせい】 いざという時は、施設長である私が指揮をとって対応していく心がけはしています。病気の対策については、風邪の流行りやすい時期にマスクを用意しています。しかし、利用者には病気になったらなるべく通所を



控えるよう呼びかけています。あとは普通の運営の中で、スタッフが意識して利用者の様子に注意を向けるよう呼びかけていきます。

【花時計】 スタッフにインフルエンザの予防接種を義務付けました。また、災害対策については2ヶ月に1度、地震や火事、そして怪我人が出た場合を想定した避難訓練を行っています。花時計の付近には境南小学校、境南コミセン、ぐっどういる境南など避難に適した場所があるのですが、現在テンミリオンハウスは2次的な避難所に該当するのかを市に検討してもらっています。そういう状態ですので備蓄品などを揃えるということまでには至っていません。

【質問】 補助金には限りがあるので各施設とも人件費のやり繰りには大変なご苦労をされていると思います。そのことを踏まえてお聞きしますが、本来賃金を支払うべきところを予算の関係で無償にせざるを得なかった、というケースがあればお聞かせください。

【川路さんち】 スタッフは全員ボランティア精神を持って、日々従事しています。ただ、プログラムの講師にはもう少しお礼を差し上げたいと思っています。例えば、お忙しいなか荒天にも関わらず講師として来てくださるところを見ていると、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになります。

また、開設して10年も経つと備品などが老朽化してきます。現在はバザーを開催して利用者の作品を売り上げたお金で備品を購入し、利用者にも知らせるようにしています。

【関三倶楽部】 現在従事しているスタッフは約20名で、全員ヘルパーの資格を持っており、時給にもそれなりの相場があります。しかし関三倶楽部は相場の半値程度の時給にも関わらず、スタッフ全員納得してもらった上で従事しています。事業の性格上、ボランティアはお願いできない状況ですので、スタッフがそれぞれに努力を重ねてがんばっています。

【きんもくせい】 スタッフ体制のことで問題が出たりすることがありますが、人件費のことで不満が出たことはありません。川路さんちと同様に、ボランティアとして来ていただいているプログラムの講師にちゃんとした御礼をする必要があると思っています。それ以前に、補助金をいかに有効に使っていくかということについては施設長である自分自身が切磋琢磨していく必要があると考えています。

【花時計】 スタッフそれぞれが地域に関わることに生きがいややりがいを感しながら日々運営しておりますので、お金に関する問題は特にありません。プログラムの講師に対しては、ほんの気持ち程度ですが1年に1度お礼を差し上

げることでは対処しています。

【質問】 世代間交流について質問します。花時計では児童向けにお琴や茶道の教室を開いていますが、受講している方はどのくらいいらっしゃいますか。また、教室を開くに至った経緯をお聞かせください。そして、他の施設でも世代間交流についてどのようなことをされているかお聞かせください。

【川路さんち】 近所に精華保育園があります。その園児が散歩の途中で川路さんちに立ち寄ってくれて、合唱、手作り人形のプレゼント、芋ほりで掘ったお芋を届けてくれたりしています。そのお礼として、クリスマスのに蜜柑を1箱差し上げています。夏にはビアパーティを開催しているのですが、園長先生が参加してくれています。

また、今年は小学生が前期・後期で8人ずつ授業の一環として来てくれました。児童たちが川路さんちで何をやるか考えてきてくれるのですが、中でも印象に残ったのは、お年より向けにとっても大きなカルタを作ってきたグループがありまして、児童を交えてカルタとりをしたのですが、断然利用者が強かったことです。

その他、小学校から学芸会等行事への招待状が届きますので、現在はスタッフが出席しているのですが、状況が許す限り利用者も出席できるような形にしていきたいと考えています。

【関三倶楽部】 学童クラブの階下であり、楽しく交流しているイメージを持たれると思うのですが、なかなか交流するまでには至っていません。逆に利用する児童が1～3年生という一番活発な年齢ということもあって、騒音に悩まされることが多いです。ショートステイを利用される方はほとんど気にされませんが、デイサービス利用者からは驚かれてしまうことがあります。

ただ、学童クラブの先生方はとても素晴らしい方ばかりで、1年生が新しく入ってくると必ず関三倶楽部がどんな施設かを見学させて、騒がないように指導をしています。もっとも、それも一時的なもので終わってしまうのですが。

【きんもくせい】 毎年夏休みの時期に多数の学生がボランティアでいらっしゃいます。そこで利用者とのふれあいを見ていると、「これは大事なことだ」と思うことが多々あります。そこで思うのは、このままきんもくせいの中だけで関係を終わらせるのではなく、この関係をもっと広げられるのではないかということなのです。現在きんもくせいでは、秋に市民会館で利用者の作品展を行っています。ボランティアでいらした学生にはその作品展にぜひ来てもらうよう呼びかけています。

また、長期計画というわけではありませんが、いつか亜細亜大学の学園祭や小中学校の学芸会に参加させていただき、利用者の努力の成果をみなさんに披露してみたいという思いがあります。その他にもきんもくせいが外に広がっていきける環境はあると思うので、ひとつずつ具体化して実現させていきたいです。

【花時計】 境南小学校の副校長先生とお話をする機会がありまして、児童の方もぜひいらしてほしい旨をお伝えしたところ、花時計のような小さい施設に児童全員がお邪魔するのは難しいでしょうというご意見をいただきました。そこで、人数を絞って日本の伝統文化を伝えようという目的でお琴と茶道の講座を始めました。現在お琴には11名、茶道は9名の児童が通っています。いずれの講座も講師はボランティアで来ていただいています。

【質問】 花時計に質問します。開設日が月曜日から金曜日となっていますが、土曜日の開設について要望など出ていませんか。

【花時計】 高齢利用者からはありません。乳幼児の親御さんからは1～2回出た程度です。土曜日については父親のお仕事が休みの方が多いようで、今のところ土曜日開設についてそれほど高いニーズはないと感じています。ちなみに、土・日曜日は施設自体を閉じています。

【質問】 関三倶楽部の緊急ショートステイ利用料は6000円とありますが、内訳を教えてください。

【関三倶楽部】 利用料が4800円、食事が1200円です。

【質問】 きんもくせいにスタッフ体制について質問します。運営団体本部から3人が従事されていると思うのですが、きんもくせいにおける役割はどのようなものなのですか。

【きんもくせい】 3人のうち2人はアドバイザー的役割を担っています。ただし、利用者との接点はそれほどありません。残りの1人は経理を担当しています。

【質問】 事業資金計画書支出の部に記載されている「本部総務経理人件費」というのは、今おっしゃられた経理の方の人件費なのですね。

【きんもくせい】 そのとおりです。

【委員長】 以上で質問を終了します。ありがとうございました。

## 5 事業計画の採択

【委員長】 それでは事業計画の採択について議論をしていきます。まず私から始めにお話させていただきますが、事業評価基準にある「利用者の多寡加算」

ですが、現行のままでよいのでしょうか。各施設とも利用者が増えつつあるので、内容に無理が生じてきているように思います。今回の採択については当然現行のものを適用せざるを得ませんが、次回からは内容を変える必要があると思います。いかがでしょうか。

【事務局】 実は現在、テンミリオンハウスの運営支援を委託している市民社会福祉協議会を事務局とし、各施設の代表者を委員として年度末を期限にテンミリオンハウス事業のあり方を検討してもらっています。来年で事業開始から10年の節目を迎えるため、事業そのもののあり方について月1回会議開いて議論してもらっています。その中で、事業評価基準の内容も議論してもらっています。例えば、資料1-①中の「世代間交流事業を専用フロアにおいて実施する場合」という項目については、該当するのが花時計だけです。いくら他の施設で世代間交流を実施しているとしても、この基準には適用されないことになっています。やはり評価基準も抜本的見直しが必要です。次回の委員会までに事務局で見直し案を作成しますので、委員の皆様にご議論していただきたいと思います。

【委員】 スタッフに対する賃金のことなのですが、きんもくせいのように現場に関わっていない方にまで補助金から賃金を支払うというのはいかがなものでしょうか。多少なりとも現場で利用者と触れ合い、そのうえで本部経理に従事するような形をとらないと、本部が持つテンミリオンハウスというものへの意識が薄れてしまうような気がするのです。そういう意味では本部と現場スタッフに対する配慮が必要だと思います。

【副委員長】 NPO法人がテンミリオンハウスを運営するには経理担当者が当然必要になってきます。問題はどのような仕組みで補助するのかだと思います。

【委員】 やはり、経理担当者であっても現場との接触は必要だと思います。本部経費は予算を計上するためには必要であると思いますが、そういう職員にもテンミリオンハウスを理解するための仕組みはあって然るべきだと思います。

【副委員長】 施設ごとに労災、雇用など社会保険の計上がまちまちですね。せめて社会保険を計上するためのガイドラインは作ってほしいし、その責任が行政にはあると思います。

【事務局】 法定福利費を計上する場合には基本的に常勤職員を置くことになっています。法定上、雇用保険や福利が発生する職員に対しては事業主負担で計上することになっています。ただし、市民団体が運営する施設については常

勤職がおりません。これについては東京都社会福祉協議会の労災・損害保険のようなボランティア保険を適用することになっています。

【委員】 ただ気になるのは、例えばそ～らの家の人件費を見ると、時給900円のスタッフが1日8時間働いて年間255日勤務するとの記載があります。これは常勤職と見てもよいと思います。それでも労災保険や労働保険に入っていないのは危険だと思いますが問題はないのでしょうか。

【事務局】 確認します\*。

※そ～らの家を始めとして、市民団体が運営するテンミリオンハウスについては責任者の職にある者(3～5人)が交替制という形で従事しているため、常勤職には当たりません。また、各施設とも労災保険に加入しています。

【委員長】 今年4月に非常勤職員に関する法律が改正されていますので、市は施設に対して一定の枠組みを示して指導するような形をとっていただきたいと思います。極端な例を挙げると、週1回従事の職員でも有給休暇が取れることになったのです。そのあたりの配慮をお願いします。

【委員】 各施設とも源泉徴収は行っているのでしょうか。

【事務局】 源泉徴収はしています。配偶者の扶養関係もありますので、その辺りは配慮しているようです。

【委員長】 他にご意見がなければ、以上で採択するというところでよろしいでしょうか。→ 委員了承

## 6 報告事項

### (1) テンミリオンハウスアンケート報告書について

事務局より資料2と当日配付資料を基に説明

【委員長】 質問があればお願いします。

【委員】 全体的なまとめがないので、報告書としては少し寂しい気がします。また、テンミリオンハウスが市民やボランティアへ今ひとつ浸透していないという結果を受けて、個々の施設が対策を練っていることはわかります。では、市はどのような方針を取っていくのでしょうか。その辺りを明らかにしたほうがよいと思います。

【委員長】 そもそも、このアンケート調査を実施することになったきっかけは、今後のテンミリオンハウスはどうあるべきかを我々委員が議論していくた

めの基礎資料を作成することでした。現在、市民社会福祉協議会が事務局となっており方の検討委員会を立ち上げ、事業評価基準を始めとした見直しに取り組んでいるようですから、我々委員としてはこの報告書案を精読して次回の委員会への議論に備える必要があると思います。

ただし、この報告書案を市民に公表する場合はそれなりの文言を加える必要があると思います。事務局は今後の取り扱いについて、どのようにお考えですか。

**【事務局】** 今回の報告書案作成については、前回の委員会での指摘を受けて、分析は行わずにあくまで結果の記載のみに留めました。もし今後の方向性を記載するのであれば、新たに加筆する必要があると思います。

**【副委員長】** 今回の報告書案は全体としてのまとめかたは非常にすっきりした形になっています。しかし、単なる結果の羅列に終始してしまっていて、逆に物足りなくなった感じがします。前回の委員会で作された報告書案の問題点は分析主体がはっきりしていなかった点にあり、分析というよりは主観的な意見が盛り込まれていたところに難があったのです。分析は責任の所在を明らかにしたうえで行うべきものです。場合によっては、運営団体にこの結果を見もらったうえで意見を伺い、それを報告書に盛り込むという方法もあると思います。あるいは、我々委員が結果を見た上で申し上げた意見を盛り込む方法もあります。前回の委員会で指摘したのは結果分析の責任者が不明確だったことです。

**【委員】** 今後のテンミリオンハウスが持つ「夢」のようなものが伝わる内容であればおもしろいのではないのでしょうか。この報告書を基に委員と運営団体との座談会を開いて、そこで「夢」などを語っていただく。その内容を報告書に盛り込めば更に内容のあるものができると思うのですが。

**【事務局】** 現在、健康福祉部では健康福祉総合計画を策定しているところですが、そこでは始めに実態調査を行い、その調査結果に基づいて今後の計画を考えていきます。前回の委員会で提示した報告書案は委員の皆様のご指摘のとおり、分析者の主観的意見が多分に盛り込まれていましたので、ある程度の内容をカットしました。しかし、事務局としてはこの際まとめの部分もカットし、単に客観的事実を伝えるものに留め、その結果に基づいて今後の事業のあり方を検討していくのがよいと考えます。

あり方を考えることについては、この事業採択・評価委員会も対象になると思います。実は要綱を見ると、この委員会の委員には任期が定められていません。

こういった基本的なところを含めて抜本的な見直しが必要になってくると思います。他の委員会形態を見ると、委員の何割かは公募によって選ばれています。事務局もまだ具体的な見直し方法は考えていないのですが、例えば、現場については先程申し上げたあり方検討委員会でこの10年間の総括と今後のあり方を議論していただきます。そして委員の皆様にも今年度末から来年度にかけてこの10年間の総括と今後の展望を議論していただきます。その後には評価委員と運営団体の2つの要素から見たこれまでの総括と夢を盛り込んだ報告書を作成し、今回まとめたアンケート調査の結果はあくまでそのための基礎資料とするのがよいと思います。

【委員長】 いずれにしても、市民に公表するのであればもう少し編集の手を加える必要があります。やはり、この報告書は我々委員が内容をじっくり読み込んだ上で議論するための資料とすることがよいのではないのでしょうか。この報告書の位置づけをこの場で委員の皆さんに確認したいと思いますがいかがですか。

【委員】 アンケートの対象者には地域住民も含まれています。やはり、結果は知りたいでしょうから、市民への公表は必要かと思います。

【委員長】 私としては、まず、テンミリオンハウスのあり方に関する報告書を作成し、その基礎資料としてこのアンケート結果を掲載するという形で市民へ公表したほうがすっきりすると思います。今回の報告書案をそのまま市民へ公表し、意見を募るのは難しいと思います。

【委員】 調査は調査。分析は分析という2段階で市民へ公表するべきかと思います。

【委員】 少なくとも現場のスタッフにはこの報告書を読ませるべきだと思います。

【委員】 この報告書にある最後のまとめの部分は全て削除すべきだと思います。むしろ、結果だけを市民に公表するのであれば、読みやすくなるように更にコンパクトする必要があると思います。

また、テンミリオンハウスのあり方を検討する場合は、議論の対象を分けて考えるべきです。例えば、利用者の多少、運営団体の種別、ボランティアの多少など施設ごとにそれぞれ条件が異なるので、そういった配慮は必要になると思います。

【委員長】 市民への公表というのは当然行うべきですが、問題は公表するタイミングです。採択基準も評価基準もこの委員会で作成するのが原則となって

います。その基準を作成する際に考慮しなければいけないのは、テンミリオンハウスは今後どのようにしていくのがよいのかを明確にイメージすることです。そのイメージを持つことができなければ、基準の作成はできません。事業開始から来年度で10年を迎えるにあたり、我々委員は委員なりにこれからのテンミリオンハウスの青写真を描かなければいけません。その青写真を報告書として作成した際に、基礎資料となったこのアンケート結果を更にコンパクトにしたものを掲載する。流れとしてはこの方法が市民にも誤解を招かずに済むでしょうし、スムーズだと思います。

【委員】 そうなると、この報告書案の表題は「アンケート調査統計書」という名称になりますね。

【事務局】 それではこの報告書案については、分析、まとめの部分は削除し、客観的なデータの提示に変更し、字句整理を行ったうえで確定させていきます。むしろ、各施設ともリスクに対する備えが不十分であったことが今回のヒアリングで判明しましたので、他にも行政が指導していかなければいけない問題を明らかにしてマニュアル等整備していく必要があると思います。

【委員長】 次回の委員会では今後のテンミリオンハウスはどうあるべきかの青写真を描いていくこととなります。このアンケート結果を施設に配る際は先程の議論で指摘された点を修正したうえで配付してください。他にご意見がなければ報告事項についての議論はこれで終了します。

## 7 その他

【事務局】 次回の委員会は平成21年5月に開催となりますが、平成20年度中に、さきほど申し上げたテンミリオンハウスあり方検討委員会から提言が提出されますので、可能であれば次回委員会で資料としてご提示したいと思います。以上です。

## 8 閉会

以上